

資料②「その場で」と「即興で」とは？（理論編）



「話すこと」における即興性については、学習指導要領の「話すこと」の目標において、小学校では「その場で」、中学校では「即興で」という言葉で示されています。校種間で連続性のある指導を意識して「言語活動」を通して英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育むためには、つながりや違いを理解することが重要です。

学習指導要領が示す「その場」と「即興で」について確認しましょう。

	小学校	中学校
話すこと「やり取り」	<p>「その場で」 伝え合うとは？</p> <p>それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり答えたりする。</p>	<p>「即興で」 伝え合うとは？</p> <p>話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの、準備時間をとらない。不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合う。</p>
	<p>★「つながり」に注目！</p> <p>実際のコミュニケーションの場面においては、情報や考えなどを送り手と受け手が即座にやり取りすることが多く、英文を頭の中で組み立てる時間を長くとれないため、即興性が重要となります。</p> <p>つまり、小学校での「その場で」の「やり取り」の経験が、中学校で「即興で」話す力につながるのです。</p>	
話すこと「発表」	<p>「整理した上で」 話すとは？</p> <p>日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。</p>	<p>「即興で」 話すとは？</p> <p>関心のある事柄について、小学校での学習やこれまでの経験の中で触れてきた語彙や表現を含め、中学校で扱う語句や文を用いて、即興で、聞き手に対して一方向で話して伝える。</p>
	<p>★「違い」に注目！</p> <p>発表においては、小学校では事前に伝えたい内容を整理して発表するのに対し、中学校では小学校での経験を踏まえ、即興で話すことを目指します。</p> <p>小学校の「整理する」とは、英文で発表内容を書くといった文字に残す準備ではありません。例えば、Small Talk で用いた自分のことを伝える表現を発音して自分の声を1人1台端末に録音し、発表内容を表す写真に紐づけて「音声データ」として記録に残したり、分かりやすい内容になるよう順番を入れ替えたりするなどの学習を指します。</p>	